



九十九島の生きものについて
教えてくれた永光さん

山口県出身の永光さんは、中学生の頃に家族旅行で訪れた海きさらでイルカのパログラムを

九十九島リラクルーズを降りて、目の前の「九十九島水族館海きさら」へ向かった。九十九島近海には約千種の魚たちが生息しており、こちらは九十九島にすむ生きものたちを展示することで、その多様な世界を私たちに教えてくれる施設だ。館内では様々な魚やウミガメの姿を間近で見ることができ、九州初展示となる珍しい魚も泳いでいる。しかし、なんといつでもメインは九十九島の海の中を再現した大水槽だ。大きなエイが気持ちよさそうに泳いでいる横で、イワシの大群がキラキラと光っている。飼育員の永光萌衣さんは「この大水槽は屋根がないのが特徴です。なるべく自然に近い状態で九十九島の海の中を見ていただくために、自然光を取り入れています。今日は光が入ってとてもきれいです。雨の日も波紋が美しく、幻想的な九十九島の姿をご覧いただけます」と話す。

海きさらでは、まず飼育員自身九十九島への理解を深めようと、一人一人がテーマを掲げ調査研究を行っている。永光さんもカプトガニの調査に取り組

目の前には 広がるのは 九十九島の海の中



九十九島の海の中を
再現した大水槽



九十九島水族館 海きさら

アクロバティックな技をいくつも見せてくれた。



「クラゲシンフォニードーム」では九十九島周辺に生息しているクラゲを展示しており、その神秘的な姿に魅了される。



見て以来、イルカのトレーナーを目指していた。しかし、専門学校の研修で再度海きさらを訪れた際、魚の面白さに触れ、現在の仕事に就いたという。「自分がまだ出会っていない魚に会うことは楽しいですね。また、解説イベントなどでお客様の生の声を聞くのも嬉しいですよ」と話す彼女は九十九島への愛が伝わってくる。

海きさらのもう一つのお楽しみは、中学時代の永光さんが魅了されたイルカのパログラム。迫力満点のイルカの大ジャンプは、水濡れ覚悟で楽しんでほしい。